

■ 実証場所

京極発電所

・監査廊連絡トンネル

上部調整池監査廊へのアクセストンネル

・水圧管路管理トンネル

上部水圧管路へのアクセストンネル

■ 実証期間

2024年10月4日から1年程度

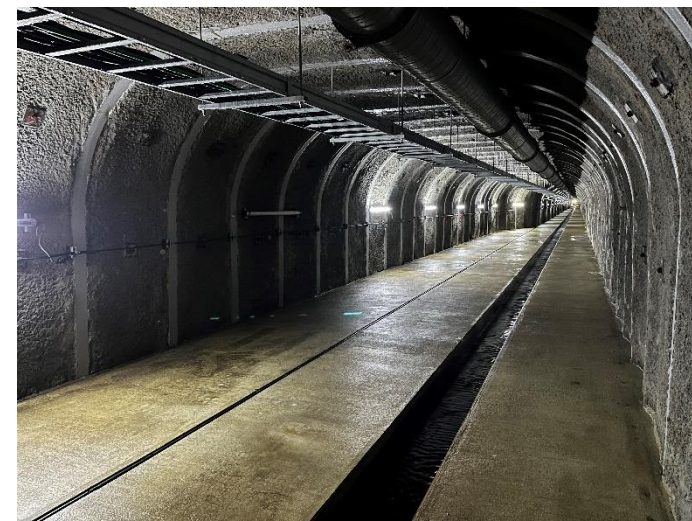
■ 実証事業における両社の役割



北海道産酒米による日本酒の製造
貯蔵後の日本酒の熟成効果確認
熟成後の日本酒の販売



実証場所の提供
実証場所の点検・環境状況の測定



監査廊連絡トンネル

実証事業のコンセプト



- 北海道産にこだわった酒造り
- 6次産業化地方創生ビジネスのイノベーションを志向

- 壮大な自然に囲まれた水力発電所施設の有効活用
- 北海道のポテンシャルを活かし、社会課題の解決に資する地域共創の想い

京極発電所における日本酒熟成の共同実証事業が目指す姿

北海道産酒米を使用した日本酒の知名度向上と消費拡大

地域活性化による北海道の持続的な発展

～北海道における酒米の生産拡大、地酒の魅力向上による観光等への波及効果

【参考】京極発電所の概要

所在地	北海道虻田郡京極町
河川の名称（京極ダム）	尻別川水系ペーペナイ川および美比内川
発電方式	水力（純揚水式）
最大使用水量	190.5m ³ /s
有効落差	369.0m
運転開始	1号機（200,000kW）：2014年10月1日 2号機（200,000kW）：2015年11月1日 3号機（200,000kW）：2033年度以降

※揚水式発電所

- 上部調整池と下部調整池があり、電気の消費の少ない時に水を上部調整池へ汲み上げておき、電気の消費が多い時に上部調整池の水を下部調整池に落として発電する方式を「揚水式」といい、電気を水の形で蓄えておく蓄電池の働きを果たします。その中でも、上部調整池に河川からの流入がなく、一度、調整池に溜めた水のみを利用する方式を「純揚水式」といいます。
- 太陽光発電や風力発電など、天候により再生可能エネルギーの出力（発電量）が増えたり減ったりした場合に、調整池の水を汲み上げたり落としたりすることで需要と供給のバランスを調整することができ、再生可能エネルギーの導入拡大に寄与しています。

【参考】京極発電所の全景

